

平成28年12月22日

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣 様
財務大臣
厚生労働大臣

下諏訪町議会議長 中村 奎 司

介護保険制度の利用者視点での更なる充実を求める意見書

現在政府内で、2017年通常国会に向けた介護保険制度の見直しの検討が進められています。

介護保険制度の目的は、高齢者の介護を社会全体で支え、自立支援につなげることに同時に、家族の介護負担を軽減し、誰もが安心して生活できる社会をつくることにあります。

介護保険制度の見直しについては、給付の縮小や利用者負担の増額を回避するなかで、持続可能な制度として維持できるよう検討していくことが重要と考えます。給付を抑制することは、介護を受けられなくなる人が増加し、「介護難民」を増やしてしまうことになりかねません。また、家族の介護負担を増大させるような見直しは、政府が掲げる「介護離職ゼロ」政策そのものにも真っ向から反するものです。

今後も高齢化がいつそう進んでいくなか、できるだけ少ない負担で、行き届いた介護が保障されることは、全ての高齢者・国民の願いです。

このような情勢を踏まえ、利用者視点に立った見直しにより介護保険制度を更に充実させ、より利用しやすい制度となるよう改善されることを強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。